

金子静枝・中原佳代きりえ遺作展

平成21年4月25日(土)～5月24日(日)

会場／第1展示室(金子静枝作品展示)
第2展示室(中原佳代作品展示)

入館料／一般300円(20人以上は250円) 中学生以下150円

休館日／月曜日、4月30日(木)、5月7日(木)

趣 旨／

昨年、亡くなられたきりえ作家お二人の遺作展を開催いたします。

金子静枝さん、中原佳代さんともに文化村設立にあたり何度も門前町を訪れており、その際に作品展や講演会を行ったこともあるなど、文化村にゆかりのある方々です。日本のみならず、世界中の風景をきりえて表現した金子静枝さんと、華麗な花きりえの世界を確立した中原佳代さんの作品をぜひ鑑賞下さい。



金子静枝氏

●金子静枝略歴

1929年、兵庫県尼崎市生まれ。1952年、武蔵野美術学校西洋画科卒業。刺繍デザイナーをしながらきりえを始める。手工芸美術展入賞。日本きりえ協会の創立メンバー。アメリカや中国でもきりえの展覧会や教室を開催。1989年、マルセイユのジャパンウィーク、1998年、イギリス、チェスター市で和紙ときりえ作品展示。1990年、地球一周クルーズで22か国訪問取材。イタリア、トルコなどもスケッチ取材(その成果は「きりえ・スケッチ西から東へ」として結実)。日本きりえ協会、日本美術会、平和美術会議等で会員を務められた。2007年11月26日、夫で反戦運動家の金子徳好氏が逝去。それからほぼ1年後の2008年11月29日、その後を追うように亡くなられた。享年79歳。主な著書◎「さるかにがっせん」(岩崎書店/1969年) 武部本一郎・文◎「アポロ月へいく」(岩崎書店/1970年) 武部本一郎・文◎「きり絵でつづるある夫婦の戦後史」(日中出版/1977年) 夫・徳好氏との共著◎「アリー・パパと四十人のどうぞく」(らくだ出版/1984年) ぬたはらのぶあき訳◎「きりえの想い 金子静枝画文集」(広樹社/1988年)◎「東京わが町きりえ画文集」(新日本医学出版社/1993年) 夫・徳好氏との共著◎「統一・東京わが町きりえ画文集」(新日本医学出版社/1995年) 夫・徳好氏との共著◎「きりえ・スケッチ西から東へ 金子静枝作品集」(第三書館/2003年)◎「太平洋端捕り物語」(私家版/2006年) 清水谷子・文(紙芝居)

金子静枝さんは、木本有太可氏とともに日本きりえ協会の創立メンバーの一人であり、また本人も能登に縁があったことから、文化村の設立にあたり幾度となく門前町を訪れている。文化村での「'94きりえ作家五人展(吉原澄悦・井出文蔵・岩井喜一・木本有太可・金子静枝)」の開催、また自著をご寄贈されるなど、文化村創設期を支えられた作家の一人である。



中原佳代氏

●中原佳代略歴

1905年、東京に生まれる。1925年、実践学園国文科中退、結婚。1945年夫と死別。一男三女の母として仕事と家庭を両立。株式会社主婦と生活社創業に伴い、編集作業に携わる。「週刊女性」発刊に際し、編集次長となる。1965年、主婦と生活社退職。株式会社東洋高圧(現・三井東圧)内KK東洋ビューティーサプライ副社長となる。1971年、KK東京美容科学研究所を経て「柿の葉会」代表を務める。1990年、同社退職。2008年、8月1日逝去、享年103歳。

昭和48年頃より、きりえ作家金子静枝氏よりきりえの手ほどきを受け、以後自学自習で創作を続ける。グループ展・団体展・個展を多数発表。数年後、花との出会いに感激し、専ら花による作品を発表。花きりえをテーマとした著書に、「花きりえ 野の花にしひがし」(私家版/平成2年)、「だれでもできる最新 花きりえ教室」(誠文堂新光社/平成8年)、「花きりえ木の花 草の花」(私家版/平成8年)がある。また、他に歌集「きりこの灯」(短歌研究社/平成5年)があり、同著は本人から寄贈され、現在は輪島市立門前図書館に収蔵されている。

日本きりえ協会常任委員、東京きりえ美術会常任委員を歴任し、木本有太可氏との交遊も深く、文化村の設立にあたり門前町を何度も訪れている。その際には門前町役場で講演会を開催。

また、自著「花きりえ木の花 草の花」では画題にゆきわりそうを探り上げ、門前町のつるぎ荘に宿泊した思い出を綴っている。



金子静枝
「多摩の獅子舞」



中原佳代「むべ」

会期中、会場で展示会の感想を書いて下さった方の中から抽選で、中原佳代きりえ画集「花きりえ 木の花 草の花」を10名にプレゼントいたします。(提供:中原裕子)



もんぜん文化村児童生徒 きりえ秀作展開催のお知らせ

平成21年5月1日(金)～7日(木)の1週間、石川県庁19階展望ロビーにて30点の作品を展示しています。

森岡善郎遺作展

平成21年4月25日(土)～5月24日(日)

平成21年6月10日(水)～7月9日(木)

会場／第3展示室

入館料／一般300円(20人以上は250円) 中学生以下150円

休館日／月曜日、4月30日(木)、5月7日(木)

趣 旨／

元・門前きりえ愛好会会長、森岡善郎さんが亡くなられて今年で三年…。

森岡さんは、もんぜん文化村設立当初より20年近くにわたり、門前のきりえ美術の普及・啓発に携わってきました。また、ご自身も意欲的にきりえを制作し、数多くの作品を遺されました。

森岡さんの心温まる作品をぜひ鑑賞下さい。

なお、本展は前期・後期の2期に分け、一部作品を入れ替えて展示いたします。



「總持寺鐘楼」



森岡善郎氏

●森岡善郎略歴

大正6年、門前町に生まれる。もんぜん文化村が門前の「きりえの里」として整備されたのを契機として、平成5年に「きりえ愛好会」が組織され、その代表者となる。門前町にとってきりえは全く未知の分野であり、発足に当たって会員の勧誘や学習会の組織に大変な苦勞をされた。

文化村で開催される「全国きりえ秀作展」では、地元愛好者の賛助出品の拡大に尽力。文化村からのきりえ行事に対する協力要請に対して、意欲的に参加された。地元の文化協会活動に対しても、門前町文化協会常任理事や輪島市文化協会理事などを歴任。地域における美術文化の振興発展に力を注がれた。その功績により平成元年に門前町長表彰を授章、平成19年には平成18年度輪島市文化功労賞を受賞された。平成19年3月14日逝去。享年89歳。



「凍てつく寒夜」

6月8日(月)～13日(土)東京都墨田区両国の日本のきりえ協会事務局にて、金子静枝・中原佳代きりえ遺作展の巡回展を行います。 ■主催:ばくの会(文化村より委託)

■主催:輪島市教育委員会 ■後援:日本きりえ協会・北國新聞社